

かし はら 檜原の棚田及び農村景観

No.36-01

所在地：徳島県上勝町
面積：59.3 ha

選定年月日：平成22年2月22日、平成25年10月17日追加・名称変更
選定基準：二(一)(八)

(1) 概要

四国の勝浦川(かつうらがわ)上流部は急峻な地形の合間に棚田と農家が散在する地域で、その中の檜原地区には、深い山林に覆われた里山を背景として、檜原谷川へと連続する標高500～700mの急傾斜面上に3つの棚田と居住地が展開します。

閉じられた山間の地すべり地形を示す窪地状の地形に、一群の棚田と農家がまとまって展開する農耕と居住の在り方は、この地域の典型的・代表的な土地利用形態を示し、良好な文化的景観を形成しています。

檜原の棚田を中心とする土地利用の最大の特質は、文化10年(1813)11月の紀年銘のある『勝浦郡檜原村分間絵図(かつうらぐんかしはらむらぶんけんえず)』に描かれた水田の位置・形態・家屋・道・堂宇・小祠(しょうし)の位置などとの詳細な照合が可能なことです。精度高く描かれた詳細な内容と現況との比較により、200年以上もの間、土地利用形態が殆ど変化していないことがわかります。

棚田への水利系統は、檜原谷川から等高線に沿って引かれた14本の用水により精巧に張り巡らされています。檜原の棚田は、全体の面積が大きいのに対し、水田1枚当たりの平均面積が180㎡と小さく、平均勾配は約4分の1と急勾配であり、立地する標高も町内の他事例に比較して最も高いなど、この地域における棚田の中でも特質が見られます。



田植えを間近に控えた棚田



田植えの様子



曲線で形成される耕地



棚田オーナー制によると都市住民との交流

（２）選定範囲



重要文化的景観の選定範囲

- 重要な構成要素：27件

（３）選定による効果

檜原地区では、棚田を中心とした重要文化的景観の保全と活用の施策として、棚田オーナー制度やワーキングホリデーの導入、景観ガイドブックや手引きの発行や景観を活用したイベントや観光の促進を行いました。これらの取り組みによって、檜原地区の景観は、地域の歴史や文化を反映した美しいものとして評価されています。

また、景観の保全と活用は、地域の経済や社会にも様々な効果をもたらしています。選定によって、地域の誇りや自信が高まり、景観の保全意識が向上したのみならず、棚田オーナー制度やワーキングホリデーによって、農業の担い手や地域住民との交流が増加し、農業の継続や高齢者の支援にもつながりました。

加えて、景観ガイドブックや手引きによって、景観の価値や特徴が地域住民や外部の人々に伝えられ、景観の理解や共感を深めることができました。今後は、景観を活用したイベントや観光によって、地域の活性化や交流を促進し、地域の魅力や知名度をさらに向上させていきたいと考えています。



平成の水車小屋

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 上勝町檜原地区景観条例(平成21年7月、上勝町)
- 徳島県上勝町檜原地区(水田景観) 檜原の棚田文化的景観保存計画(平成21年5月、上勝町)
- 上勝町檜原地区景観計画(平成21年5月、上勝町)
- 上勝町檜原地区一景観形成ガイドラインー 棚田景観を守る暮らしの手引き(平成22年3月、上勝町)
- 重要文化的景観檜原の棚田ガイドブック(平成23年3月、上勝町)

(5) 活用事例

事例36-01 ①

重要文化的景観を分かりやすく伝えるガイドブックと暮らしの手引き

●行政による取り組み

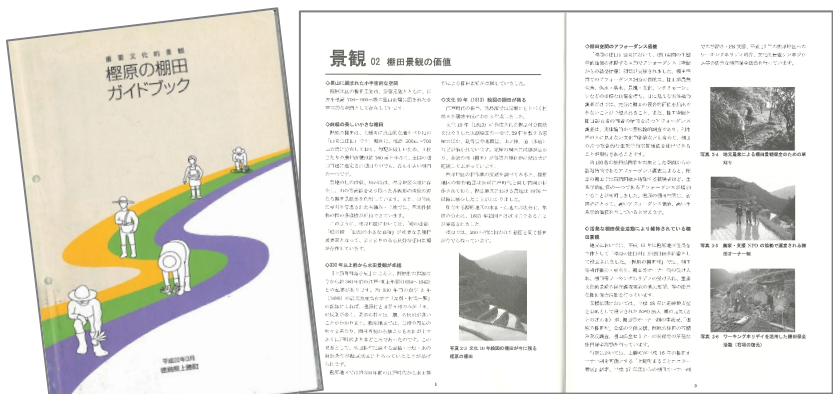
平成22年3月には、『重要文化的景観 檜原の棚田ガイドブック』及び『上勝町檜原地区一景観形成ガイドラインー棚田景観を守る暮らしの手引き』を作成しました。

『重要文化的景観 檜原の棚田ガイドブック』は檜原の棚田の訪問者、ガイドの方、そして学校での教材活用を目的として、檜原の棚田の歴史・伝統・生活・景観などについてわかりやすく解説したものです。

『上勝町檜原地区一景観形成ガイドラインー棚田景観を守る暮らしの手引き』は、景観法・文化財保護法・景観条例に基づく「檜原地区景観形成基準」を、高齢化が進む上勝町において、檜原地区の棚田農家を中心とした檜原地区に関わる方を対象としてわかりやすく解説したものです。ここでは、景観要素について、望ましい景観形成のための「基本的な方針・ルール」のみならず、「気をつけたい作法」についても記載があります。また、日常の中で出てきそうな疑問や迷いに対するアドバイスも書き込み、できるだけわかりやすく、読みやすい手引き書として編集しています。

作成に関わったNPO法人代表の声

高齢化によって遊休農地が増える中、何よりも求められるのが棚田の存続です。そのためには、町外の方々との交流促進が不可欠。棚田が持つ美しい曲線や畔の段、水路を流れる水の音には、一度足を運んだ人に「もう一度、訪れたい」と誘発させる効果があります。だからこそ、まずは足を運んでもらうことが大事。そのための知恵を、みんなで出し合っていければと感じます。



重要文化的景観 檜原の棚田ガイドブック



上勝町檜原地区一景観形成ガイドラインー棚田景観を守る暮らしの手引き

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報への

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり

（５）活用事例

事例36-01 ②

棚田を活かした感動ビジネスの創出

●住民や団体等による取り組み

平成15年には住民を主体とする棚田の保全を目的とする「檜原の棚田村」が組織化されました。平成16年には「上勝町まるごとエコツー特区」が国に認定され、この特区を活用して、平成16年に「檜原の棚田村」が主催する棚田オーナー制度が誕生しました。

棚田オーナー制度は、現在、「NPO法人 郷の元気」と「檜原の棚田村」が連携して実施しています。都市住民が農業体験を通じて自然と触れ合い、地元の農家と交流することで、地域の価値を再認識し、地域の持続活性化につながる活動を展開しています。作業内容は、田植え（5月末～6月はじめ）、草取り・草刈り（6月～7月）、稲刈り（9月）、収穫祭（10月）です。その他、自由参加のイベントとして、「早乙女田植、早乙女稲刈り」の開催などがあります。

持続的な棚田の保全・活用を図ることを目的として、棚田を主とする地域資源を活用した感動ビジネスの創出の一環として「棚田ウェディング」を行いました。棚田ウェディングは、自然と人々が一体となる感動的な瞬間を創り出す取り組みです。令和5年には、新たな感動ビジネスの取り組みとして、集落合意のもと檜原の棚田での棚田キャンプが創設されるとともに、檜原地区での棚田ヤマビコ体験活動がスタートし、高齢化する棚田地域での次の一步に着手しました。

✓ とくしま集落再生表彰最優秀賞（令和4年度）

団体等情報：NPO法人 郷の元気 <https://satonogennki.amebaownd.com/>



棚田オーナー制度



早乙女田植



棚田ヤマビコ体験活動



棚田ウェディング

参加住民の声

棚田オーナー制度や棚田ウェディングは自然と人々が織りなす一大イベントです。その美しさと感動は、来訪者だけでなく、地域の人々にも新たな活力を与えています。

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の目標の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 資源の確保と運用

⑥ 人づくり・人育